

主な水産用語の解説

本書に記載する主な水産用語は次のとおりです。

がいとうちよう
外套長 イカ・タコ類の内蔵を覆う膜状に伸びた体表の長さ。

かにゆう かにゆうりよう
加入（加入量） ある年に生まれた水産生物が成長して漁場に現れ、漁獲の対象となる時点や状態。加入量は、こういった時点や状態に達した水産生物の数や量。

からつりなわ
空釣り縄 餌の付いていない釣り針を海底をほうように敷設し、魚体を引っ掛けて釣るはえ縄漁法の1つ。

かんじゅうらん みずご
完熟卵（水子） 卵巣内の卵が成熟し、卵粒が急激に大きくなって透明になった状態。

きよかぎぎよう
許可漁業 水産資源の保護あるいは漁業調整のために、一般には禁止している漁業を一定条件のもとに解除する漁業。知事許可漁業と大臣許可漁業（指定漁業）がある。

ぎよくどりよくりよう
漁獲努力量 漁獲にどれだけの努力を払ったかを表す量で、資源からの間引きの強さに比例する。出漁日数、隻数、ひき網回数、反数（網の長さ）、針数など。

ぎよぎようけん
漁業権 都道府県知事の免許により、公共水面の区域を限って、特定の漁業を排他独占的に営むことのできる漁業の権利。定置、区画、共同の3種類がある。

きよようぎよかくりよう
許容漁獲量 資源の管理において、その資源から漁獲によって間引かれることが許される量。この範囲内で漁業を行う制度を許容漁獲量制という。

けいぐん
系群 資源の変動などを考える際の単位となる群れのこと。産卵場、分布、回遊などの違いにより区分される地域集団。系統群ともいう。

こうちよう
甲長 エビ、カニなど甲殻類の甲らの長さ。

こほーとかいせき
コホート解析 年齢別漁獲尾数から漁獲死亡と自然死亡を考慮し、年齢別資源尾数を求める方法。

さいせいさん
再生産 生物資源が次代の資源を産み出すこと。繁殖と同義にも用いられる。

さくじ
索餌 餌を探し求めること。

CPUE (catch per unit effort) 単位努力量あたり漁獲量（尾数）のことで、その多少が一般的に資源量の指標となる。1日1隻あたり漁獲重量や1カゴあたり漁獲尾数など。

しげんかいふくけいかく
資源回復計画 国、または都道府県が、資源状況の悪化がみられる水産資源について、早急に資源を回復させるため、関係漁業者等が取り組むべき漁獲努力量の削減措置や資源の培養対策、公的規制や支援措置、資源回復の達成目標等を定めるもの。

しげんかんりきようてい
資源管理協定 水産資源を適切に管理し、合理的に利用するため、体長制限や漁場移動等の資源管理措置、罰則規定等を定めた漁業者団体相互による自主的な水産資源の管理に関する協定。

しげんかんりけいかく
資源管理計画 本道周辺海域において、水産資源の水準や地域の実情等に応じ、漁業者による資源の管理措置、資源の増大対策、経済的有効利用の促進や漁場環境の保全等に取り組むために漁協等が自主的に定める計画。

しげんりよう しげんじゅうりよう しげんびすう
資源量（資源重量・資源尾数） ある生物の集団に含まれる生物の総量で、資源重量は重量で表したもの、資源尾数は尾数で表したもの。

しげんりようしすう しげんみつどしすう
資源量指数・資源密度指数 資源量や資源密度を相対的に示す指標であり、経年的に比較することで水準や動向を把握することができる。資源量指数は、分布域内に設けられた調査エリアごとのCPUEや分布密度をそれぞれのエリアの面積で重み付けし、それを合算したもの。資源密度指数は、資源量指数を分布域の全面積で除した値。

しせき
耳石 魚類の内耳にある炭酸カルシウムの結晶からなる組織である。年齢や日齢を調べる形質として使用される。

しちぎよ
仔稚魚 一般的に、卵からふ化し、外見が成魚と大きく異なる状態のものを仔魚、発育が進み外見が成魚と同様になり、ふ化後1年に達するまでのものを稚魚と呼び、これらを合わせて表現する場合の呼称。

しゅびよう
種苗 水産では増養殖に用いる稚魚や稚貝など。天然採集、人工採卵、および飼育によって得られる。

せいじゅうらん
成熟卵 受精可能となった卵。完熟卵ともいう。

ぜんちよう
全長 動物の体の前端から後端までの長さ。

たいちよう
体長 魚類では、上顎の先端から尾びれを支える骨の基部までの距離。本書を含む水産資源一般では、計測の簡便化のために、上顎の先端の代わりに、体の最前端を用いることがある。

TAC (タック) 「total allowable catch : 総漁獲可能量」の略。魚種ごとに漁獲できる総量を定めることにより、資源の維持・回復を図る資源管理の手法の1つ。我が国では、現在「漁業法」に基づいて、クロマグロ、サンマ、スケトウダラ、スルメイカ、ズワイガニ、マアジ、マイワシ、マサバ・ゴマサバで定められている。

たくえつはっせい
卓越発生 年級群（後述）の発生量が、他の年に比べ極端に多くなる現象。また、卓越発生した年級群を

卓越年級群と呼ぶ。

ねんきゅうぐん
年級群（コホート） 同じ年に生まれた集団のこと。
この集団の大きさの程度を年級群豊度という。

び さ ちょう
尾叉長 上顎の先端から尾びれの後端中央の切れ込みまでの距離。本書を含む水産資源一般では、計測の簡便化のために、体の最前端から尾びれ後端中央の切れ込みまでの距離としている。

ふ か しゅつ
ふ化（ふ出） 生物の子が卵から外界に出てくると。

ブリコ ハタハタが産出した卵の塊の一般的呼称。

へらびき へらと呼ばれる潜行板を一定間隔で糸に結

び、その1枚ずつに糸と針を結んで、船でひく漁法。

ほうど
豊度 資源生物が環境中に存在する量のことを、水産分野では一般的にこう呼称する。

ほうらん
抱卵 卵巣内に卵を持つこと。甲殻類などでは、産卵した卵を親が抱えて保護すること。

ほっかいどうぎょぎょうちょうせいきそく
北海道 漁業 調整 規則 北海道に適用される水産資源の保護培養、漁業調整、漁業取締などに関する規則。

みせいぎょ
未成魚 形態は成魚の特徴を整えているが、未成熟で産卵に参加しない個体。

めあい
目合 刺し網などの網目の大きさ。

資源の維持・増大のために

◎資源を維持・増大させるためには、資源管理が有効であり、以下の方法があります。

➤ 操業日数や操業時間の短縮

定期的な休漁日を設けるなどして、漁獲の強さを抑えようという手法です。大量漁獲による単価の低下を防ぐ効果もあります。

➤ 漁具の制限、目合の制限

漁具の種類や数を制限することによって、漁獲の強さを抑えようという手法です。また、刺し網などの目合を大きくすることで、小型魚の漁獲を抑えることができます。

➤ 漁獲物の制限

小さな魚が獲れた時は海へ再放流し、大きく成長してから漁獲することで、1尾から得られる漁獲量・金額を増やすことができる手法です。また、産卵に参加できる雌親を増やすためには、雌が漁獲されても海へ再放流することが効果的です。

➤ 禁漁区・禁漁期の設定

産卵や稚魚の育成にとって重要な海域・時期などを保護して、産卵親魚や小型魚を漁獲しないようにしようという手法です。

➤ 漁獲量の制限

漁獲量に上限を設定することで、漁獲の強さを抑えようという手法です。

◎その他に、資源を維持・増大させるためには、以下の方法もあります。

➤ 漁場整備

魚礁や産卵礁の設置や造成、漁場耕耘などを行い、水産生物の産卵・成育環境を整えます。

➤ 種苗放流

技術開発が進んでいる水産生物については、種苗放流により資源を増大できるものもあります。